



1 自己評価

I 評価結果

- ・ 学校教育目標「やさしく かしく たくましい 北小の子の育成」(心の教育・学力の向上・健やかな心身)の中から評価項目を12項目設定し、「児童」「保護者」「教員」「地域」を対象とした調査の結果等を参考に自己評価を行った。
- ・ 評価結果が4段階の「4」(80%以上)であった項目は「授業がよくわかる」「学力テストの向上」「生活規律の定着」「登下校の安全」であり、「2」(60%～70%)は「家庭学習の時間数」であった。(残りの7項目は「3」) ＜別紙：学校評価書 参照＞

II 分析・改善方策

- ・ 学校全体として、学力がある程度定着し、落ち着きのある学校生活を送ることができるようになってきているが、個々の児童の課題は多く残っている。今後の改善方策については、4(来年度の取組の重点)に示しているとおりである。また、都市計画道路の開通に伴い、交通量の増加だけでなく、各店舗のオープンも相次ぎ、安全面の配慮がますます必要になってきている。

2 学校関係者評価委員会

日笠完治(希望ヶ丘ホスピタル院長)	津田幸保(美作大学准教授)	森 尚美(教育委員)
竹本秀彰(元北小育成会会長)	内藤房子(総社保育園長)	赤松由美子(鶴山幼稚園長)
飯田明嗣(北小育成会役員)	三苫俊一(守り育てる会役員)	河部一仁(北小育成会会長)
井上正尊(北小PTA会長)		

3 学校関係者評価

- ・ 課題であった「あいさつ」が、改善傾向にあり、多くの児童が自分から気持ちのよいあいさつをすることができるようになってきている。
- ・ 「学力テスト」については、だんだんと平均を上回るようになってきたことは評価できる。しかし、評価基準がやや曖昧(平均を上回るかどうか)なため、今後、数値化するなどの工夫が必要である。
- ・ 「心の教育」の充実をめざし、縦割り班の導入や特別支援教育、道徳教育などに力を入れていることは評価できる。児童も個々の課題はあるものの全体的に落ち着いて過ごしているのではない。

4 来年度の取組の重点(学校評価を踏まえた今後の方向性)

『やさしく かしく たくましい 北小の子の育成』 ＜グレードアップ 北小＞

1 「どの子にも楽しい学校を！」(積極的な生徒指導と人権学習)

① 「心の教育」を充実させる。

- ・ 道徳教育、特別支援教育、人権教育、特別活動などの取り組みの充実と工夫改善。
- ・ 積極的な生徒指導(ほめて伸ばす生徒指導)の展開。
- ・ 縦割り班の導入と充実による集団づくり。

② 「健やかな心身」の育成を図る。

- ・ 生徒指導や教育相談の充実による生活規律の定着とより落ち着いた学校づくり。

2 「どの子にもわかる授業を！」(特別支援教育の考えを基盤においた学力の向上)

① 「基礎基本」を定着させる。

- ・ つまずきの見極めと必要な支援。(学力の底上げ)
- ・ 基礎学力の保障により自尊感情を高め、学習意欲を向上させる。

② 「習得」と「活用」の授業を展開する。

- ・ 「教えて考えさせる授業」や子ども同士のつながりを大切にした授業の実践。

3 「家庭や地域との連携」を推進する。

① 「基本的な生活習慣」や「家庭学習」の定着を図る。

② 「児童の安全確保」に努める。(家庭や地域の協力)